やまなみ

御船町立御船中学校　学校便り
令和４年　９月号

校訓　自創友　律造愛

国語力を育む

校長　作田潤一

社会がグローバリゼーションによって複雑化する一方で、日本の子どもたちの国語の力の脆弱さが顕著になりつつあることが、ずいぶん前から指摘されてきました。

近年の子どもたちは、言葉によって道を切り開いていくのが苦手で、あらゆることを「ヤバイ」「エグイ」「死ね」といった極端な言葉で表現し、他者との無用なトラブルを生んだり、コミュニケーションを諦めることが増えています。

本来、人にとって言葉は、物事を知覚する、想像する、思考する、表現するといったことのベースとなるものです。それを時代に合った形で適切に使用できなければ、生きるうえでの妨げとなります。人間関係が悪化したときに「嫌だ！」と諦めるのではなく、なぜそうなったのか、自分はどうしたいのか、そのためには誰にどう伝えればいいのかを論理的に考えられれば、折り合いをつける術も見えてきます。

社会に出てからも同じで、ビジネスや家族関係、地域住民との関係において、適切な言葉の使い方が、物事を円滑に進めることにつながります。逆に言えば、それができなければ多くのところでつまずくことになりかねません。

近年、求められている、英語力、プログラミング能力、起業家精神などの基盤は国語力です。

子どもたちが２０年後、３０年後を心豊かに逞しく生き抜けるよう、語彙力・読解力を鍛える読書・NIE 活動、情緒力を培う協働活動、常識や想像力を磨く外部人材との交流、表現力を育成する校内での意見交換や発表等の国語力を育む教育活動を展開しているところです。

修学旅行

７月６日(水)、７日(木)に３年生は福岡・山口へ修学旅行に行きました。新型コロナウイルスの影響で延期が続いていましたが、ようやく実現でき、様々な場面で生徒の笑顔が見られました。１日目に訪問した大刀洗平和資料館では、実際に戦争で使われた武器や特攻隊員の方の手記を見て、戦争の悲惨さや命の尊さについて学ぶことができました。生徒からは、「同じ年齢の人や小学生が空襲によって亡くなったと知って、とても苦しい気持ちになりました。」、「今ある日常が当たり前ではないことに気付いたので、これから感謝をして生活していきたいです。」という感想が聞かれました。

修学旅行を通して学んだことや、深まった絆を、今後の生活に生かしていきたいと思います。

１年生総合的な学習

７月５日（火）と７日（木）に地域の方々からお話を伺いました。４月の「仲間デイズ」で町内ウォークラリーに行ったとき、「なぜ城山公園の上に銅像が建っているのだろう」「恐竜公園になぜブルック像が建っているのだろう」などの疑問が生徒たちから寄せられました。御船町の由来や歴史を知ることで、知っているようで知らなかった御船町のことを再発見できました。また、地域の方々の生き方や思いを知り、自分の生き方を考える機会になりました。

２学期はテーマごとにグループに分かれて調べ学習を行い、学習成果発表会で劇や展示物で学んだことを発信していきたいと思います。（写真は福味総一郎さんが光永平蔵さんのことを紙芝居で紹介している様子です。）

新聞社見学

７月２１日（木）に、新聞社見学を行いました。今年度の学習成果発表会で行われる「学級新聞コンクール」に向けて、実際の新聞作りがどのような環境で行われているのかを見学に行きました。新型コロナウイルスの影響で、残念ながら社内を見学することはできませんでしたが、映像を見たり講話を聞いたりして、自分たちに活かせる情報を得ることができたようです。

また、それと併せて、３年生の劇発表に向けたインタビューも行いました。熊本地震発生時の新聞社の動きについて伺いながら、そのことを取り入れて生徒たちが劇のシナリオを作成します。上演が楽しみです。

夢輝き！教育講演会

９月８日（木）に「夢輝き！教育講演会」を開催しました。今回は１型糖尿病を患いながらエアロビック競技日本代表として活躍された大村詠一さんに講演をしていただきました。大村さんは８歳のときに診断を受け、辛い思いをした経験も交えながら、「私は自分の現在に悩んだとき、『誰のために、何のために、あなたは何をしたいのか。』という言葉を思い出すようにしています。夢を持つこと、叶えることは素晴らしい！でも、叶わなくてもそこから何をするのかが大切です。」と夢に向かって努力することの大切さを話されました。生徒からは「大村さんの前向きな生き方を知って、自分もいろいろなことにチャレンジしていきたいです。」との感想が聞かれました。